

中央銀行の独立とトランプ政権

世界の中央銀行の総裁たちが FED のパウエル議長に対して支持と連帯を表明した。日曜日にパウエル議長は自身が刑事捜査の対象になったことを動画で公表した。その中で彼はトランプ大統領による政治圧力に対して強く反論した。表向きは FRB 本部の改修工事を巡る捜査だが、明らかに大幅な利下げを求める大統領の意向に沿わない議長への脅しと排除が狙いだ。以前から大統領が言っていたことを、司法省を使ってアクションを起こしたわけだ。

世界の中央銀行の総裁たちが一致して行動するのは金融危機などの際に協調して政策を実行するケースがあるが、今回のように中央銀行の独立への脅威に対して共同行動を起こすのは珍しい。ユーロ圏、英国、スイス、スウェーデンなどの欧州勢、アジアオセアニアからは韓国、オーストラリアなど、南米からはブラジルなどだ。なぜか日銀は加わっていない。

大統領の手先になった司法省が議長を刑事訴追の対象にしたことで FED の独立性が危機に陥る可能性が深まった。パウエルの議長任期は 5 月だ。過去の議長の場合、理事の任期が残っていても議長任期で FED を去ることが多い。

だが動画で示したパウエル議長の FED の独立性を守るための強い危機感、そして世界の仲間たちからの強固な支持により、パウエルは議長退任後も FED に理事として残る可能性が出てきた。もしパウエルが辞めると 7 人の理事のうち 4 人がトランプ大統領指名の理事になる。理事は 1 2 の地方連銀総裁の人事権を持つため、早晩トランプ派が多数を占め FOMC での金融政策決定を左右してしまう。

一方パウエルの後任の議長は明日にでも大統領が決定し今月後半に発表される予定だ。次の議長はトランプの意向を反映する金融政策を目指す。だが現在の FOMC 内での支持を得るのは難しいだろう。さらに議長は上院で承認されなければならないが、共和党議員の中にも議長への刑事訴追の問題を非難する人もいて承認が円滑に運ぶか不明だ。

ところで市場の反応だが、FED の独立性への脅威はこれまでドル売り、長期金利上昇、米国資産売りが一般的反応だった。だが今回、月曜日はその兆候が多少あったがその後は目立っていない。上記の理由でトランプの圧力にもかかわらず、当面 FED が独立性を維持できるとの見方があるからだ。それに市場の慣れがある。トランプの FED やパウエルに対する攻撃は今に始まったことではない。市場への織り込みもある。さらに TACO (Trump always chicken out) の可能性もある。

とは言ってもトランプは侮れない。どんな多数派工作をしてくるかわからない。FOMC のメンバーにとってトランプ政権の圧力は今後も脅威であることに変わらない。トランプ派が FOMC の多数派を握り勝利する可能性も否定できない。そうなればドル離れが加速するだろう。長期金が急上昇し、バブル崩壊の引き金になることも考えられる。